

# 船舶事故調査報告書

平成25年2月21日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年8月26日（日） 14時54分ごろ
発生場所	福岡県福岡市 <sup>げんかい</sup> 玄界漁港東岸 福岡市所在の玄界島灯台から真方位161° 1,000m付近 （概位 北緯33° 41.0′ 東経130° 14.3′）
事故調査の経過	平成24年8月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート ヤマハ <sup>ヤマハ</sup> 、2.5トン 290-62387福岡、日本ライフサポート株式会社 6.40m (Lr) × 2.59m × 1.49m、FRP ガソリン機関、264.80kW、平成24年4月
乗組員等に関する情報	船長 男性 28歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成24年5月21日 免許証交付日 平成24年5月21日 （平成29年5月20日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関に濡損、船底外板に擦過傷、右舷外板に亀裂
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者7人を乗せて平成24年8月26日12時00分ごろ福岡市東区大岳 <sup>おおたけ</sup> 所在のマリーナを出航し、玄界島周辺で遊走を楽しんだ後、大岳のマリーナに向けて約30km/hの速力で東進中、玄界漁港防波堤の東方約50mの所で船首から波をかぶって海水が船内に滞留し、船長が右に舵を取って船首を南方に向けたところ、機関が停止して圧流され始め、14時54分ごろ玄界漁港防波堤東方に設置された消波ブロックに乗り揚げた。 本船は、左舷側から海水が船内に打ち込み始めたので、同乗者全員が消波ブロックに移り、船長が、滞留している海水を船外に排出したが、大量であったので海上保安庁に救助を求めた。 船長及び同乗者は、消波ブロックから防波堤に上がって玄界漁港に徒歩で移動し、本船は、海上保安庁から連絡を受けた福岡県水難救済会所属の船により引き下ろされて玄界漁港にえい航された。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 晴れ、風向 東、風速 約4～5m/s、視界 良好  海象：潮汐 上げ潮の中央期、潮高 約112cm、波高 約50cm</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、喫水が船首約70cm船尾約50cmであり、ウォータージェット推進装置のプレジャーボートであった。</p> <p>本船は、大岳のマリーナを出航してから、回数を数え切れないほどの波を船首からかぶり、海水が船内の床上に滞留していた。</p> <p>本船は、大岳のマリーナにえい航されたあとで機関室を調べたところ、機関が海水に浸かっていた。</p> <p>本船は、船尾部にある機関室のハッチカバーと床との接触部分にあたるゴム製水密パッキンの一部が所定の位置から外れていた。</p> <p>船長及び同乗者は、水着の上に救命胴衣を着用していた。</p>
<p><b>分析</b>  乗組員等の関与  船体・機関等の関与  気象・海象の関与  判明した事項の解析</p>	<p>あり  あり  あり</p> <p>本船は、玄界漁港東方沖を東進中、船首から波をかぶって船内に滞留していた海水が機関室ハッチカバーの水密パッキンの隙間から機関室に入ったことから、機関が濡れて停止し、風浪に圧流されて消波ブロックに乗り揚げたものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、玄界漁港東方沖を東進中、船内に滞留していた海水が機関室ハッチカバーの水密パッキンの隙間から機関室に入ったため、機関が濡れて停止し、風浪に圧流されて消波ブロックに乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海水が甲板上に滞留しやすい小型船は、甲板上のハッチカバーの水密パッキンを点検すること。</li> </ul>